

平成二十六年 未さん申さん達の田作り

～第八期大椎っ子田んぼ、第五期あすみっ子田んぼ 先生方からの言葉～

新年度に入りましたが、昨年度学校田んぼと一緒に支えてくださった先生方からメッセージをいただきましたので掲載いたします。学校田んぼは年間を通じての作業です。さまざまな学校行事で忙しいなか、普段から子どもたちと稲作のこと、田んぼのこと、生き物のこと、食べ物の大切さなどを話しながら、子どもたちの関心を維持させてくださった先生方のご理解、ご協力がなくては成り立ちません。先生方が子どもたちと同じように、それ以上に学校田んぼを楽しみにしてくださっていたから、子どもたちも負けじと作業を一生懸命やってくれたのかもしれない。1年間、ありがとうございました。

■あすみが丘小学校

☆5月のさわやかな季節に、初めてあすみっ子田んぼに行きました。子どもたちとあすみが丘小を出発しておよそ40分、小山の谷津田です。そこは、昔の原風景、なんともいえない懐かしさを感じられました。林も沢も田んぼも一体となって相互につながっているということが実感として理解できました。そこで伝統的農法での米づくりの仕事に入りました。私も経験したことのない昔ながらの米づくりで驚くばかりでした。また、そこに生息する生き物観察もしました。ニホンアカガエルやメダカなどが観察できるとは思ってもよらないことでした。金谷さんをはじめたくさんの方々から、命の大切さ・食べ物の大切さなどを教えていただきました。米づくりの仕事では終わらない深さを感じました。

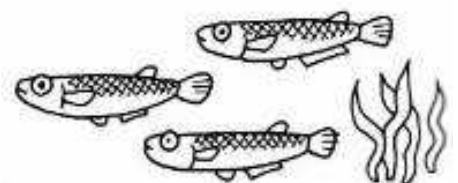
学校から歩いて行ける所に、こんな自然豊かな場所があることは、本当に素晴らしいことです。たくさんの方を教えていただいたことに感謝いたします。
 (大木 利子)

☆私の実家は周りをぐるっと田んぼに囲まれています。毎年7月には、稲が育ち、辺り一面が緑の絨毯のようになります。きらきらした稲が風にゆれる様子は本当にきれいで、子どもたちからその風景が大好きでした。

そんな私は、毎回あすみ田んぼに行くことを子どもたち以上に楽しみにしていました。あすみ田んぼは、忙しい毎日過ごすなかで忘れかけていた自然の素晴らしさを思い出させてくれました。青い空と田んぼの緑があまりにもきれいで、感動したのを覚えています。また、金谷さんの命についてのお話をお聞きして、私たちがたくさんの方の命によって生かされていることを改めて感じました。子どもたちにとっても、あすみ田んぼで過ごした時間は自然と直接触れ合い、命について考え、命の大切さを学ぶことができたとても貴重な時間になったと思います。YPPの皆さんやボランティアの皆さん、あすみ田んぼの豊かな自然に心から感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。
 (椎名 ゆりか)

☆私は今年であすみ田んぼ歴（お手伝いを含めて）5年になります。毎年感じることは、あすみ小の子どもたちが本当に恵まれているなあ、ということです。自分たちの住んでいる地域に小山のような自然が残されていること、YPPのみなさんがいて、米作りについて学べる機会があることは、他の学校では、できないことです。私は5年生の担任になって田んぼの学習をするたびに、このような環境があることに感謝しなければならないということを、子どもたちに1番に伝えます。今年は4歳の自分の子どもを連れてお手伝いに行きました。わが子にもぜひ見せたい風景、体験させたい活動でした。自然に中でのびのびと走り回るわが子を見て、改めてこの活動の意義を感じています。これからもあすみ小の5年生がお世話になります。どうぞ、よろしくお願いします。

(寺田 知弘)



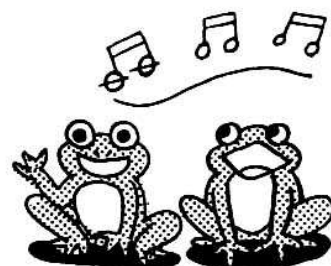
■大椎小学校

☆大椎小の2階の廊下には、『大椎っ子田んぼ』の掲示物があります。昨年の5月から掲示を始め、12月に完成しました。横10メートル以上のスペースには、A3サイズの写真が40枚以上、それぞれの体験についての説明書きがあるなど、一目で大椎っ子田んぼの1年間の足跡がはっきりとわかります。写真の多くには、子どもたちのキラキラと輝く姿がメインに写っていましたが、その向こうには、YPPや大椎っ子田んぼのボランティアのみなさんの姿も写っていました。大椎っ子田んぼのメインは、体験活動であり、子どもたちに環境教育に目を向けさせることです。ただ、子どもたちの笑顔の向こうにあるたくさんの人達の姿から、より多くの人との関わりの大切さを子どもたちに教える必要性も改めて感じさせられました。（教務主任・川島秀樹）

☆小さい頃、田植えをしている人にお茶を持っていくお手伝いをした記憶がありますが、実際に田んぼに入ったことは初めての体験でした。「ズボッ、ヌル、グニャグニャ」という不思議な体験が忘れられません。田植え、草取り、稲刈り、脱穀、みそづくりと1年間貴重な体験をさせていただいたことは、私の宝物となりました。また、谷津田の生き物を身近にみることができ、珍しい動植物に出会えてほんとうに楽しかったです。普段、興味を持ってじっくりと見るのがないため、虫めがねなどを使って見るなど、すばらしい体験でした。子どもたちもこの体験を生かして、食べ物や命の大切さに目を向けることができるようになりました。以前は関心がなかった給食で出てくるお米の1粒1粒を大切に食べる気持ちが出てきたように思います。ありがとうございました。（5年生担任・市原かおる）

☆4月始め、再び5年生の担任となり、また、小山町の谷津田に行けるとわかるとなぜか心がワクワクした。2年前もお世話になり、大人である私も子どもになったように楽しんだからだ。児童にとって生まれて初めての体験となった田植えは、ドロドロとした土の感触が一生忘れられない良い思い出となったようだ。また、田んぼに一步足を踏み入れるごとにたくさんの小さな生き物が死んでいくこと、たくさんの犠牲のもとに米作りが行なわれていることに激をうけていた。この話を聞いた後からの児童の顔色が変わり、食べ物に対する考え方が少し変わってきたようにも思える。普段、あすみが丘に住む児童にとって、小山町の自然は近い場所にあるものの、なかなか触れ合う機会が少ない。しかし、5年生の米作りの学習を通して身近な自然を知り、触れ合い、そこからたくさんの驚きや発見をしながら自分たちの住むまわりの自然環境について考える良い機会にもなった。子どもも大人も夢中になって楽しめるこの小山町の谷津田をこれからもずっと残して行ってほしいと思う。（5年生担任・金沢和範）

☆今年度、大椎小学校の5年生の子どもたちとともに、田作りの経験をさせていただきました。YPPのみなさんやボランティアの方々のご協力があり、大きな怪我もなく、無事に活動を終えることができました。本当にありがとうございました。この田作りの活動を通し子どもたちは、自分たちは実はたくさんの命に支えられて生きているのだということを知ることができました。「田植えをする＝命を育む」という概念を持っていた子どもたちにとって、田植えのために田に足を一步踏み入れるごとにたくさんの微生物が死んでしまうという話は衝撃的だったようです。私たちは食べ物を得るために多くの命をいただいているということがとても強く心に残った様子でした。これらの経験から、一人一人が食べ物に感謝して食べようとする心情が、この1年で養われたように思います。給食では、かつてはお椀にご飯つぶがたくさんついたまま返却されていましたが、今では箸で1粒1粒丁寧にとりようになりお椀はピカピカになりました。残菜が出て当たり前だった5年3組の食缶の中は、現在ほとんど残菜ゼロです。これも、この1年で米を作る農家の方の大変さを知り、命を頂き得ている食べ物へのありがたみを学習できたからだと思います。ぜひ、この経験から得たことを忘れず大人になって欲しいと思います。（5年生担任・佐藤朋代）





里山たんけんレポート

第 182 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2015年3月1日(日) くもり

雨がばらつくどんよりとした曇空で雨の心配があったので、ニホンアカガエルの卵塊の調査から始めました。前回調査の2月15日までに産卵されていたものはほとんど孵化して卵塊はばらけたり、ペちゃんこになっていて、オタマジャクシは泳ぎだしています。その後産卵されたものはまだ卵塊がまとまった塊りになっているので区別できますのでそれを数えました。YPP 田、大塚田で 288 個が 16 日以降に産卵されていました。それ以前に産卵されたものを合わせると 515 個。下大和田の谷津全体では 1,320 個で 2010 年以降最大となりました。

アライグマの足跡があちこちにあり、カメやカエルの食圧が心配されます。山ではシュンランの蕾が膨らみ、開花も間近です。落ち葉溜めが作られました。田んぼに入れる堆肥を作るためですが、カブトムシの幼虫の棲家にもなるでしょう。

(参加者 大人 6 名、中学生 1 名、小学生 1 名； 報告：網代春男)

第 173 回 下大和田 YPP「味わおう！春の野草」

2015年3月15日(日) くもり

3月も半ばになり、ウグイスのさえすりや草花の開花に春らしさを感じるようになりました。そんな中、開催された恒例の野草を食べる会。最初に谷津を散策して野草を探しました。例年よりも1週間早く、少し寒の戻りがあったので、いつもの野草が出ているかちょっと不安でしたが、ヨモギ、ノビル、ミツバ、ニワトコ、タネツケバナ、セリなど、ひと通りの野草がちゃんと出ていて、手にした袋やかごが摘んだ野草でいっぱいになりました。広場に戻ってきて、まずは選別。野草の特徴や似ている毒草との違いなどを教えてもらい、良い勉強になりました。そして、天ぷらにさせていただきました。ちょっと苦みのある味わいはこの季節ならではのものです。インドネシアの学生さん達が参加していましたが、“オイシイです”と皆さん喜んでいらっしゃいました。お腹がいっぱいになったところで、どんど焼きの時のようにべいごま回しを楽しんだ人たちもいて歓声が上がっていました。

(参加者 大人 27 名、高校生 5 名、こども 3 名、報告 高山邦明)



摘んだ野草を選別中 →

アスマヒキガエルの産卵

今年はニホンアカガエルの卵塊がとても多かったのですが、ひと月遅れのアスマヒキガエルについてもたくさん産卵がありました。



15 匹のオスガエルが集まって“カエル合戦”
(3月22日 下大和田にて、網代)



オスが背中からしっかりとしがみついて産卵
(3月21日 小山にて、高山)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 3月 7日 ウグイスのさえずりを聞く(高山)。
3月21日 田んぼでアズマヒキガエルのカップルが産卵。シュレーゲルアオガエルが鳴く。まだ弱々しい声(高山)。

下大和田

- 3月13日 アカガエルの産卵は多かったのにオタマジャクシが何故か極端に少ない。ウグイスが囀り、ベニマシコが盛んに鳴き、近くにとまり写真を撮らせてくれた(網代)。
3月20日 シュレーゲルアオガエルの合唱が始まり、ウグイス、ホオジロが囀っていた。山ではタチツボスミシが一輪咲きました。シュンランは満開(網代)。
3月22日 アズマヒキガエル15匹ほどが蛙合戦をしていました。前日がピークだったと見えて紐状の卵塊がいっぱいだった。15匹は皆雄のようで組んずほぐれずしてもすぐ離れていた(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第175回下大和田 YPP「田起こし」(兼、第3回米づくり講座)

田植えを前にコシヒカリを植える2枚の田んぼの田起こしをします。鍬(くわ)を使っての力仕事は田んぼでのエクスサイズ。ひと汗流してみませんか? 小さなお子さんもぜひご参加ください。

日時: 2015年5月9日(土) 9時45分~14時 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴(田んぼが泥深いので長いもの)、帽子、軍手、敷物。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第184回 下大和田 5月の谷津田観察会とごみ拾い

新緑が映え、花も生きものも賑わっています。シュレーゲルアオガエルの合唱を耳に谷津を巡ります。

日時: 2015年5月3日(日) 9時45分~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼ちば里山くらす活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2015年4月12日(日)、4月17日(金) いずれも9時45分~15時

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

▼第118回 小山町 YPP「コシヒカリと黒米の苗代づくり」

最初に田植えをするコシヒカリと黒米の苗代を田んぼの隅に作ります。

日時: 2015年4月11日(土) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 下大和田と小山では昨年からアライグマの足跡が確認されるようになりました。アニメのラスカルとして知られているかわいらしさとは裏腹に、農作物に被害を及ぼすことから特定外来生物に指定されて防除の対象となっています。自然の中ではカエルやカメ、昆虫など様々な生きものを食べ、時に絶滅に追いやることがあるそうです。春になって今年も再び足跡が見られるようになり今後が心配です。(高山 邦明)